

射の遂行器であるパラボローゼ（半生態）該当部に脱分極を生じ、皮膚通電抵抗の減弱部即ち良導点を示すのであった。治療法としては、経穴の12原穴に相当する各良導絡の代表測定点の電気量を測定し、特殊考案したチャートに記入し、平均から逸脱する各良導絡を補正する。これを全良導絡調整法という。患者の個々の愁訴に対する局所療法としては、体表皮膚抵抗を探索し、局所に治療を加える。これを反応良導点治

療という。この療法は古典的な鍼治療と異なり、数字を基礎に与うべき治療法が指示されるので理解し易い。

この良導絡療法と漢方薬（猪苓湯）を投与して、永年治療している、実質性膀胱炎の患者は、昭和52年9月から続けている。

膀胱部位の、劇痛のある時は、反応良導点に長針をさし、低周波通電を行うと緩和する。

第13回 東京女子医大漢方医学研究会

日 時 昭和61年11月19日（水）午後5時30分～7時
場 所 中央校舎1階 会議室

一般演題

1. 妊娠中毒症後遺症に対する自家製生薬エキス剤の初歩的使用経験

（産婦人科）○黄 長華・谷 美智士・井口登美子・武田 佳彦

2. 子宮内膜症に対するダナゾール・小柴胡湯併用療法による肝機能障害予防効果

（第二病院産婦人科）○小倉まき子・宇都宮 道・吉田 茂子

3. ベーチェット病に対する漢方療法

（眼科）○葉 盈足・小暮美津子

特別講演 肝疾患の和漢薬治療

昭和大学藤が丘病院内科助教授 与芝 真
当番世話人 武田 佳彦

1. 妊娠中毒症後遺症に対する自家製生薬エキス剤の初歩的使用経験

（産婦人科）黄 長華・谷 美智士・井口登美子・武田 佳彦

今回我々は妊娠中毒症患者に利水、健脾作用のある導水茯苓湯と清熱、平肝、安神、利水により鎮静降圧作用を目的とした天麻釣藤飲を作製し、中医学的診断および治療を行った。

症例1は虚証で脾虚湿阻に属し、自然分娩後尿蛋白0.11g/日から0.28g/日と増量のため導水茯苓湯4.5gを投与し開始3日目より0.17g/日と減少、12日目には（-）となり、一旦薬剤を中止したが、再び（+）となり投与再開にて尿蛋白消失した。

症例2は実証で肝陽上亢に属し、妊娠29週1日尿蛋白3.16g/日、血圧190～96mmHg、子癇前症出現し帝王切開施行。産褥7日目尿蛋白、高血圧持続のため天麻釣藤飲4.5g投与し、産褥43日目より尿蛋白陰性となった。

難治性妊娠中毒症、特に尿蛋白陽性例に主眼をおき、また高血圧に対する治療も含めて自家製生薬エキス剤を使用し東洋医学的観察を行い良好な成績を得た。

しかし諸症状の改善をみるには薬剤の投与期間を最底3カ月以上行なうことが望ましいと考える。

2. 子宮内膜症に対するダナゾール・小柴胡湯併用療法による肝機能障害予防効果

（第二病院産婦人科）

小倉まき子・宇都宮 道・吉田 茂子

子宮内膜症は婦人科領域において多くみられる疾患であるが、この治療には合成ステロイド剤であるダナゾールを投与する。長期間連続投与するので副作用として肝機能障害がみられる。ダナゾールは29例に投与した。うちダナゾール単独投与9例には肝機能障害を認め、ダナゾール投与を中止し小柴胡湯を投与したところ改善を認めた。またダナゾール・小柴胡湯併用投与20例については肝機能障害を認めなかった。

小柴胡湯は柴胡を主薬とし半夏、黄芩、大棗、人参、甘草、生姜を含み内臓の炎症性疾患に対して有効であるとされる。

ダナゾールとの併用投与により肝機能障害予防に効果があったと推論された。

3. ベーチェット病に対する漢方療法

（眼科）葉 盈足・小暮美津子